



# 紙は原始宇宙 武田双雲

筆に墨を含ませて、紙に一面目を書くとき、とても緊張します。書は、一発書きであり、即興芸術なので、書き始めたら後戻りはできません。それはちょうど、ジェットコースターに乗りながらハンドリングしていくレースのようなものですが、私はこの心地よい緊張感とスピード感が大好きです。

書を書くときには、身体が動きます。身体運動が生まれて、心の動きと身体の動きがリンクする。大きな紙に巨大な筆で書くのも、小さな紙に小筆で書くのもその感覚は一緒ですが、身体と心の波動がピッタリ合う気持ちよさがいいんです。ピタッと合ったときは、自分が筆を動かしているというより、川の水のように何事もなく流れていくような感覚が掴める。

そこに書の楽しさがあります。

そのときに大切なのは、自分の心を整えること。心が整っているときは、だいたいすべてがうまくいきます。逆に、紙のせいだったり、筆のせいだったりしてうまくいかないときは、結局、心が乱れていると気づかされる。これは人間関係がギクシャクしているときも同じで、人生にも通じていたりします。書道はシンプル。でも、じつに奥が深いのです。

書道家にとって欠くことのできないものが紙。でも、改めて「紙って何だろう?」と考えてみたら、原始宇宙、そのもの、だという答に行き着きました。私にとって、まだ何の生命も生まれていない、宇宙の始まり。新しい命の誕生をイメージするような大きな枠組みが見えてきます。にじんたり、かすれたりするという紙の吸水性も大きな魅力で、薄くやわらかい紙に筆で書いていくことで生まれる創造の力に無限の可能性を感じます。

人類は数万年前に最強のコミュニケーション・ツールである「言葉」を生み出し、数千年前に「文字」を開発しました。「紙」の誕生はわずか二千年ほど前のことですが、たった二千年で、紙に記録することを通じて文明を発展させてきました。紙に書くことでコピーが生まれ、伝達す



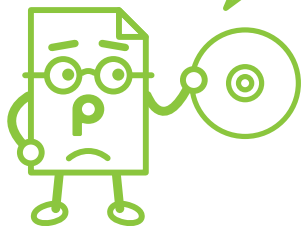
武田双雲(たけだ・そうん) ●書道家。1975年、熊本県生まれ。98年、東京理科大学卒業。3歳より書道家である母・武田双葉に師事し、書の道を歩む。大学卒業後はNTT東日本に勤務。その後、01年、書道家として独立する。NHK大河ドラマ「天地人」、映画「北の零年」、世界遺産「平泉」のロゴなど、多くの題字を揮毫。近著に「絆」「知識ゼロからの書道入門」「人生を変える「書」」などがある。

る速度が一気に進み、コミュニケーションの力が飛躍的・爆発的に増えたことを考えれば、紙の発明はとてつもないエポックメイキングな出来事だったと思います。しかし、日本ほど、紙に対してこだわりを持っている国はないのではありませんか。書道の半紙も良い半紙はとてやさしい感触を持っていて、微妙な感覚を大事にしている手漉き和紙職人さんの情熱が一緒に漉きこまれていく感じがします。実際、工房へ体験見学に行きましたが、ちよつとした腕の動きを間違えると紙が破れてしまつて、私にはできませんでした。一人前の職人になるまで最低十年はかかるというこの仕事は、繊細かつ高い技術力によって支えられています。電子メールが簡単に送れる時代に、この無駄にも思える作業を積み重ねて紙が作られる工程は合理的ではありません。でも、一見、無駄に見える中に大切なことが隠されているように思えてなりません。

## ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

### 古紙リサイクルは、デリケート。

CDやビニールなどが混ざるだけで、うまくいなくなるリサイクル。古紙の質を上げて、良い再生紙をつくるためには、これらのリサイクルをジャマしてしまう物きんざひん(禁忌品)をきちんと取り除くことが大切なんです。レシートや写真などのように、紙製品の中にも、混ざるとリサイクルのジャマになる物があるので、ご注意を。



紙のリサイクルをジャマする物(禁忌品)の一例  
◎ナイロン袋 ◎CD  
◎写真 ◎カーボン紙  
◎レシート ◎圧着はがき  
◎フィルム ◎クリップ  
◎匂いのついた紙 等



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、<http://kamitsubu.com/>「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。

◆次回は12月29日号です。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

photo : Shiro Miyake